

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																		
ECCアーティスト美容専門学校		平成15年3月28日	中村 竜二		〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西一丁目8番5号 (電話) 06 - 6373 - 1447																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																		
学校法人山口学園		昭和58年11月22日	酒元 英二		〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西二丁目3番35号 (電話) 06 - 6366 - 0144																		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																	
文化・教養	文化教養専門課程	トータル・メイク学科 ヘアメイクアーティストコース			平成20年文部科学大臣 告示第153号	-																	
学科の目的	本校は、学校教育法及び教育基本法に従い造形教育を基礎として専門技術と知識を教えるとともに、豊かな創造性と進取の気性、自律の精神に富んだ社会に有用な人材を育成することを目的とする。																						
認定年月日	平成26年3月31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	2550単位時間	870時間	2130時間	0時間	0時間	0時間																
生徒総定員		生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
284人		185人	0人	5人	9人	13人																	
学期制度	■前期：4月1日から9月30日 ■後期：10月1日から3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業出席率が75%以上であること。 総合評価点が50点以上であること。																		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：7月21日 - 8月31日 ■冬季：12月20日 - 1月9日 ■学年末：2月23日 - 4月12日			卒業・進級条件	卒業の要件) 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。																		
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会			課外活動	■課外活動の種類 ハイキング、スポーツ大会、ハロウィーンフェスティバル、文化祭、海外研修等 ■サークル活動：有																		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 (令和2年度卒業生) (主な就職、業界等) ヘアメイク・美容業界 H by piece of cake、LUAU、KAINO international、THE FACE MAKE OFFICE、TRACE、リビアス、アモレハシフィックジャパン、ピークエイツ、三景スタジオ、モードケイズ、ビーム、アトリエはるか、グレイス、リヲ等			主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 ・業界での就職先とキャリア形成の手法 ・履歴書、面接指導・企業紹介と面接対策				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JMAメイクアップ技術検定 3級 (取得率)</td> <td>③</td> <td>51人</td> <td>51人</td> </tr> <tr> <td>JMAメイクアップ技術検定 2級 (取得率)</td> <td>③</td> <td>51人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>JMAメイクアップ技術検定 1級 (取得率)</td> <td>③</td> <td>51人</td> <td>28人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JMAメイクアップ技術検定 3級 (取得率)	③	51人	51人	JMAメイクアップ技術検定 2級 (取得率)	③	51人	50人	JMAメイクアップ技術検定 1級 (取得率)	③	51人	28人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																		
	JMAメイクアップ技術検定 3級 (取得率)	③	51人		51人																		
	JMAメイクアップ技術検定 2級 (取得率)	③	51人		50人																		
	JMAメイクアップ技術検定 1級 (取得率)	③	51人		28人																		
■卒業者数 : 51 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他 (民間検定等)																				
■就職希望者数 : 43 人			■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																				
■就職者数 : 43 人																							
■就職率 : 100 %																							
■卒業者に占める就職者の割合 : 84.3 %																							
■その他 ・進学者数 : 0人																							
(令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																							
中途退学の現状	■中途退学者 9名 令和2年4月1日時点において、在学者177名 (令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者168名 (令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 金銭面、進路変更、人間関係等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等			■中退率	5%																		

<p>経済的支援 制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※特待生制度、学費減免優遇制度、ひとり暮らし支援制度等</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による 学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科の ホームページ URL</p>	<p>URL:<a href="http://art.ecc.ac.jp/">http://art.ecc.ac.jp/</a></p>

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

ヘアメイクを中心とした美容分野の知識・技術を幅広く習得するため、ヘアメイク業界を中心とした企業等と連携し、現場の意見・アイデアを導入し、卒業後、即戦力として活躍できるための体制を構築する。

- ①教育課程編成委員会を設置し、これを年間2回開催することにより企業等との連携を強化するとともに意見・アイデアをカリキュラム反映に活用する。
- ②協会・企業・サロン等に所属する非常勤講師を含めた会議を年間2回開催し、カリキュラムの確認、意見交換を実施することにより、実践的な授業展開を図るとともに学科としての意志統一を行う。
- ③特定のカリキュラム設定においては、関連企業等と提携することにより、現場に即した授業展開を図る。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、「教育課程編成委員会規定」に基づき、第2条で記載の通り、当該学科の専攻分野である美容/ビューティ/メイクを中心とした企業、団体等との連携を確保して、授業科目の開設その他教育課程の編成を適切かつ円滑に行う組織として学内に設置されたものである。学内で定例化しているカリキュラム編成会議・責任者会議を経て審議・討議された課題を中心に議題を設定し、これに基づき教育課程編成委員会で討議された結果は、再度、カリキュラム編成会議・責任者会議で具体策等を討議し緊急性/重要性を考慮の上、カリキュラム改善等の対応を実施する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
大久保紀子	一般社団法人ジャパン・ビューティメソッド協会 (JBMA)	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	①
浅沼雄元	株式会社Violet	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	③
山田真毅	株式会社ブルーリーフ	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	③
川添雅英	ECCアーティスト美容専門学校 学校長代理	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	
東井喜美	ECCアーティスト美容専門学校 副学校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回 9月、2月を基本とする。

(開催日時(実績))

第1回 令和元年9月17日 15:30～17:00

第2回 令和3年3月1日 13:30～15:15

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会において①i-Padの活用に関して、②人間力向上に関して、③インターンシップに関して等を中心に討議、意見交換を実施した。

i-Padの活用に関しては、1年生全員に配布し、ロイノート等様々なアプリを使用した授業展開をしていること確認した。SNSの発信は美容サロンでは顧客獲得等多方面での活用が期待されるとのことで、本校でもi-Padの使用に加えてSNSに関するセミナーや授業をカリキュラム化することを検討している。

人間力向上は大きなテーマの1つとして、実践行動学の導入等の取り組みも実施してきた。委員から朝礼での対応、「七つの習慣」の活用、サロンオリジナルの冊子の作成等の事例を紹介頂き、学内でもその展開を検討している。

インターンシップに関しては、事前に学生の目標や学びたいこと等の要望を提出することにより学習内容を充実させることができるとの意見を頂き、その対応を実施した。また、コロナ禍での注意事項等も確認することによりコロナ対策を意識したインターンシップを展開できるように対応した。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

### （1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専攻分野であるメイクメイク業界を中心とした企業・協会等と連携し、現場を想定した技術習得ができる実習・演習の設定に繋げる。特に①公衆衛生面の知識・技術の習得、②現場で活用できる専門技術の習得、③サロンワーク、インターンシップ等による現場を想定した技術の習得を図る。

### （2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ヘアメイクの基礎技術を習得するに当たり、美容/メイク等の技術を実施している美容サロンと提携し、インターンシップ協定書に基づき美容サロンの現場経験をすることにより雑用・アシスタント技術を理解、実践力を高める。

また、サロン即戦力としてのナチュラルメイクとアーティストとしてのショーメイク技術習得に当たり株式会社Demodeが本校と協議の上、授業内容/教材/評価方法を協議の上3月末までにシラバス作成する。年間2回の定例会議を経てDemode社から派遣の講師により授業実施、評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
サロンワーク	メイクアップ技法やお客様へのアドバイス、接客技術のレベルアップを図ります。	株式会社Demode
インターンシップ (TS/HM)	メイクサロン・トータルビューティサロン・美容室での見学実習を通して、サロンワークの流れや業務を知り、就職希望職種選択や企業選択につなげていきます。	株式会社クラフトワークス 株式会社モードケイズ 株式会社サラコーポレーション
アドバンスヘアメイク I/II	アーティストより現場で重要視されるウェット・ドライマット等 質感に着目したヘアメイク技術を習得する。	株式会社ブルーリーフ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 教務規約第35条に従って、教育の一層の充実を図るため、企業、団体等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修等や指導力の修得・向上のための研修等を実施する。  
 研修企画部門を組織して指導力の修得・向上のための研修等の年間計画を年度初めに計画し、教育進捗状況に合わせて内容・時期を調整しながら設定する。また、専攻分野における実務研修はJBMA研修への教員研修参加を定例化し、それに加えて必要な研修を確認し設定する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）ヘアメイク技術研修1」  
 （連携企業等：主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」）  
 期間：令和2年11月16日～11月18日 対象：専任、兼任教員  
 内容：ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）Professionalメイク技術に関する研修

2) 研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）ヘアメイク技術研修2」  
 （連携企業等：主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」）  
 期間：令和3年1月25日～1月27日 対象：専任、兼任教員  
 内容：ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）Expertメイク技術に関する研修

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「ICT研修（1）」  
 （連携企業等：株式会社ロイロ）、講師「認定ティーチャー シンキングツールアドバイザー」）  
 期間：令和2年4月28日 対象：専任教員、教務スタッフ  
 内容：Formsの活用手法

2) 研修名「ICT研修（2）」  
 （連携企業等：株式会社ロイロ）、講師「認定ティーチャー シンキングツールアドバイザー」）  
 期間：令和2年6月17日、6月30日（2回） 対象：専任教員、教務スタッフ  
 内容：ロイロの活用手法

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）ヘアメイク技術研修1」  
 （連携企業等：主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」）  
 期間：令和3年7月26日～7月28日 / 令和3年11月15日～17日 対象：専任  
 内容：ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）Professionalメイク技術に関する研修

2) 研修名「ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）ヘアメイク技術研修2」  
 （連携企業等：主催「ジャパンビューティ・メソッド協会」、講師「ジャパンビューティ・メソッド協会認定講師」）  
 期間：令和4年3月21日～3月23日 対象：専任  
 内容：ジャパンビューティ・メソッド協会（JBMA）Expertメイク技術に関する研修

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名「hyper - QUの活用法研修会」

(連携企業等：株式会社図書文化社 )

期間：令和3年5月10日 対象：専任教員

内容：充実した学校生活を送るためのアンケートhyper-QUの結果に基づく学生支援方法について

2) 研修名「メイクアップ技術スキル研修」

(連携企業等：株式会社BLUE LEAF )

期間：令和4年2月 対象：専任教員

内容：トレンドを取り入れたメイクテクニック技法に関する研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2020年度は9月3日、3月8日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2020年度改善された項目として、学科別での開催であった教育課程編成委員会のコース別開催の移行によるカリキュラム構築・教育活動の強化、ZOOMやTEAMSを活用しての教職員/学生との情報共有の強化・授業提供の推進による教育内容の充実とコロナ対策のオンデマンド授業対応、エアコンやトイレ改装を含めた校舎・設備の改善による教育環境の整備等が挙げられる。なお、2019年度の「自己評価報告書」ならびに2020年度「学校関係者評価委員会報告書」を学園ホームページ上に公開している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。</li> </ul>

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・年度1回目は自己評価報告書を事前にお送りし、内容の発表および質問に答える。  
 特に教育活動、学修成果の面からは前年の実績に対しての変化、(2019年度ではないが)コロナ禍における教育現場の現状に質問が集中した。また、学校側から卒業生の情報収集方法、インターンシップ受け入れ先の開拓に関して提言をいただいた。  
 ・年度2回目は1回目にいただいた提言にたいしての実行もしくは進捗報告を行った。  
 また1回目に引き続き自己評価報告書に基づき質疑応答を実施。学校側から課題としてコロナによる就職率の低下(求人数の低下)と指導方法に関する質問を行う。コロナに対応できる技術(マスク使用時のメイク方法)習得の提言をいただく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎裕輔	株式会社クラフト・ワークス	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	分野企業
大久保紀子	一般社団法人ジャパン・ビューティメソッド協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	分野協会
川端勉	資生堂プロフェッショナル株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	分野企業
貴治康夫	立命館高等学校	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高校等関係者

中上隆雄	済美地域社会福祉協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	地域関係者
鈴木有紗	卒業生	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) 令和元年年9月30日、令和2年年3月31日  
[URL:http://art.ecc.ac.jp/](http://art.ecc.ac.jp/)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に発表した「専修学校における学校評価ガイドライン」附属資料5「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨および取組に当たっての視点、情報提供の内容・方法に則り、本校が設定する項目について本校及び学園のホームページ上で広く一般に公開するものとする。連携および協力する企業等の学校関係者に対してもホームページ上で公開している情報を提供するとともに、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の委員会を通じて本校の教育活動その他の学校運営の状況について理解を深めていただくものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色</li> <li>・校長名、所在地、連絡先</li> <li>・学校の沿革、歴史</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者に関する受け入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数</li> <li>・カリキュラム（科目配当表（科目編成・授業時数）</li> <li>・進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業・終了の認定基準等）</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定</li> <li>・資格取得、検定試験合格等の実績</li> <li>・卒業者数、卒業後の進路（進学者数・主な進学先、就職者数・主な就職先）</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員数（職名別）</li> <li>・教職員の組織</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取り組み状況</li> <li>・実習・実技等の取り組み状況</li> <li>・就職支援等への取り組み支援</li> <li>・企業・施設、業界団体等との連携によるカリキュラムの改善</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況、課外活動（部活動、サークル活動、ボランティア活動）</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> </ul>
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金の取扱い（金額、納入時期）</li> <li>・活用できる経済的支援措置の内容等（奨学金、授業料減免等の案内等）</li> </ul>
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸借対照表、収支計算書、監査報告書</li> </ul>
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣状況</li> <li>・外国の学校等との交流状況</li> </ul>
(11) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則</li> <li>・学校運営の状況に関するその他の情報</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ( ) )

URL:<http://art.ecc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程トータル・メイク学科ヘアメイクアーティストコース) 2021年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			メイクアップⅠ (HM)	メイク基礎技術と発想力を高めます。	1前	60	4	○			○		○		
	○			メイクアップⅡ (HM)	イメージメイク技術や作品表現技術を習得します。また、JBMAメイクアップ検定professional取得を目指します。	1後	90	6	○			○		○		
	○			メイクアップテクニック (HM)	JBMAメイクアップ検定basic取得を目指します。	1前	60	4	○			○		○		
	○			皮膚理論/化粧品心理学	皮膚の構造・働き・トラブル等の皮膚基礎知識と理論の習得を目標とします。化粧する人間の心と行動から、コミュニケーションや健康面における化粧の機能を学習します。	1前	30	2	○			○			○	
	○			クリエイティブワーク	デザイン画を通してデザイン力を高め、作品制作で創造力を養います。	1前	30	2	○			○			○	
	○			フォトワーク	照明やカメラについての知識や写真の撮り方を学習するとともに、撮影時のメイク技術を習得します。	1後	60	4	○			○			○	
	○			ヘアアレンジメントⅠ (HM)	ブラッシング・コーミング、ブロッキング、ピン止め・ゴム止め、コテ、ホットカーラー等ヘアアレンジの基礎技術を習得します。	1前	90	6	○			○			○	
	○			ヘアアレンジメントⅡ (HM)	夜会巻・カールアップ・日本髪等のヘアアレンジテクニックを習得します。	1後	90	6	○			○			○	
	○			カラーコーディネート (HM)	「色の三属性」「配色」「トーン」等、実習を通して色彩の基礎を習得します。	1後	30	2	○			○			○	
	○			デッサン・ファッションイラストレーション (HM)	ヘアデザイン構成をイラスト表現し、サロンでお客様に提案できるスキルを身につけるために学びます。	1後	30	2	○			○			○	
	○			アシスタントスキルズ	様々な現場、シチュエーションに通用するアシスタントスキルを身につけます。	1後	30	2	○			○			○	
	○			接客基礎/プレゼンテーション	プロのヘアメイクに必要な「接客の基礎知識」と「接客の基礎技術」を学習します。またプレゼンテーション力を身につけます。	1前	30	2	○			○		○		

13	○		ファッショントレンド(HM)	グループワークや色彩コーディネートを通して自分自身の内面・外面の美しさを伸ばす力を養います。ファッションの特徴やトレンド、シルエット、柄、スタイルを学習します。	1前	30	2	○			○		○	○		
14	○		インターンシップ(HM)	メイクサロン・トータルビューティサロン・美容室での見学実習を通して、サロンワークの流れや業務を知り、就職希望職種選択や企業選択につなげていきます。	1後	30	2		○		○		○	○	○	
15	○		Active English 101	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	1前	30	2	○			○		○			
16	○		Active English 102	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	1後	30	2	○			○		○			
17	○		業界研究 I (HM)	ヘアメイク業界の概況・企業特性等について自ら調べる方法を学び、十分な業界研究を経て希望する企業選択やキャリアプランニングを行います。	1前	30	2	○			○		○	○		
18	○		美容演習 I	ワインディングを中心に美容の基礎を学び、美容師国家資格取得を目指します。	1前	30	2		○		○		○	○		
19	○		美容演習 II	オールウェーブセッティング実習を中心に、美容師資格取得を目指します。	1後	30	2		○		○		○	○		
20	○		コミュニケーション I	自己理解を深め、自己も他者も大切にするためのコミュニケーション力を高めます。	1前	30	2	○			○		○			
21	○		コミュニケーション II	自己理解を深め、自己も他者も大切にするためのコミュニケーション力を高めます。	1後	30	2	○			○		○			
22	○		SIC[1]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	1前	60	4	○			○		○	○		
23	○		SPIC[1]	春季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	1後	60	4	○			○		○	○		
24	○		プロフェッショナルメイクアップ I	メイクデザイン理論を理解して、デザインメイク力を高め、骨格を理解し、顔分析メイクを習得します。	2前	90	6		○		○			○		
25	○		プロフェッショナルメイクアップ II	ブライダルメイクや撮影メイクの知識と技術を習得する。デモンストレーション・プレゼンテーション等が出来るよう人前での実技能力を高めます。	2後	90	6		○		○			○		
26	○		アーティスティックメイクアップ I	年代別メイク、ポイントアートを学習し、技術の幅を広げます。デザイン工程・作品撮影を通して自由な発想力と高い技術を習得します。	2前	90	6		○		○			○	○	
27	○		アーティスティックメイクアップ II	基本的な舞台メイク技術からアレンジ技術を習得し、作品制作で個性豊かな作品制作を目指します。	2後	90	6		○		○			○	○	

28	○		ヘア アレンジメントⅢ	様々なヘアアレンジテクニックを組み合わせ、トータルの考えたヘアアレンジ・スタイリング技術を習得します。	2前	60	4		○		○			○		
29	○		ヘア アレンジメントⅣ	ブロースタイリング・和髪・カウンセリングなど実戦に必要なヘアアレンジテクニックを習得します。	2後	60	4		○		○			○		
30	○		アドバンスヘアメイクⅠ	ウェット・ドライ マット等 質感に着目したヘアメイク技術を習得します。	2前	30	2		○		○		○	○	○	
31	○		アドバンスヘアメイクⅡ	Iに引き続き、質感に着目し、リファレンスの集め方、コンセプトの考え方を学び、プレゼンテーションすることにより表現力を磨きます。	2後	30	2		○		○		○	○	○	
32	○		着付Ⅰ(浴衣自他装・小紋他装)	小紋・浴衣等、基本的な着物の着付と基礎知識を習得します。	2前	60	4		○		○			○		
33	○		着付Ⅱ(小紋自装・留袖振袖他装)	留袖・振袖・袴の着付と礼装着付の知識及びさまざまな帯結びを習得します。	2後	60	4		○		○			○		
34	○		ネイル テクニック(HM)	ヘアメイクのアシスタントとして身に付けておくべきスキルとして、クイックケア、カラーリング、アートを習得します。	2後	30	2		○		○			○		
35	○		Active English 201(HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	2前	30	2		○		○				○	
36	○		Active English 202(HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	2後	30	2		○		○				○	
37	○		業界研究Ⅱ(HM)	ヘアメイク業界の概況・企業特性等について引き続き自ら調べる方法を学び、より一層十分な業界研究を経て、希望する企業の選択やキャリアプランニングを行います。	2前	30	2		○		○			○	○	
38	○		就職対策Ⅰ	自分をアピールする方法や履歴書の書き方の基本を学習し、希望する職業に就けるよう具体的に準備を行います。	2後	30	2		○		○			○		
39	○		美容演習Ⅲ	ワインディング、オールウェーブセッティングのタイムアップ、完成度アップを目指します。	2前	30	2		○		○			○		
40	○		美容演習Ⅳ	カット技術を中心に、美容師国家資格取得を目指します。	2後	30	2		○		○			○		
41	○		コミュニケーションⅢ	社会生活において他者と円滑に意思の疎通が行える力を様々なワーク、取り組みを通して高めます。	2前	30	2		○		○			○		
42	○		SIC[2]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	2前	60	4		○		○			○	○	

43	○		SPIC[2]	春期に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	2後	60	4	○			○		○	○
44	○		メイクアップ カウンセリング (Expert/グ ローバルコミュ ニケーション)	JBMAメイクアップ検定expert取得を目指します。また、グローバルな人材へのヘアメイクを行い、グローバル社会で貢献できる人材を目指します。	3前	60	4	○			○		○	○
45	○		ヘア アレンジ メントV	ヘアアレンジメントⅣまでの技術の応用として現場で役立つヘアアレンジの技術を習得します。	3前	60	4	○			○			○
46	○		シャンプー&ブ ロー	サロンワークに必要な技術や実践につながる技術の習得をします。シャンプー・トリートメント・ブローテックを学びます。	3前	60	4	○			○		○	
47	○		サロンワークテ クニック (メイ クアップ)	メイクアップ技法やお客様へのアドバイス、接客技術のレベルアップを図ります。	3後	60	4	○			○			○ ○
48	○		サロンワークテ クニック (ヘア カラー)	前期に学習したシャンプー・トリートメントに続き、カラー技法やエクステンション技法を学びます。	3後	60	4	○			○		○	
49	○		着付Ⅲ (付下 げ・訪問着 応用 編)	着付プロレベルとして、体型、年齢、TPOに合わせた補整・着付け方を学びます。	3前	60	4	○			○		○	
50	○		着付Ⅳ (振袖 応用編)	プロとして、与えられた時間内で技術を行います。更に、トータルバランスを考えた着付を学習します。振袖の帯結びのバリエーションを増やし、成人式、卒業式に対応出来る技術を習得します。	3後	60	4	○			○		○	
51	○		Active English 301 (HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	3前	30	2	○			○		○	○
52	○		Active English 302 (HM)	一般英会話と職種に特化した会話表現をロールプレイング練習により習得し、コミュニケーション力の向上を図ります。様々な国の特徴や習慣等を知り、異文化理解を深めると共にGLOBAL精神を養います。	3後	30	2	○			○		○	○
53	○		就職対策Ⅱ	多様化する面接試験内容に対応し、面接時の応答力やアピール力を習得し就職試験の突破を目指します。	3前	30	2	○			○		○	
54	○		コミュニケー ションⅣ	社会生活において他者と円滑に意思の疎通が行える力を様々なワーク、取り組みを通して高めます。	3後	30	2	○			○		○	
55	○		SIC[3]	夏季に専門分野の学習と就職に向けての対策を集中的に行い、知識・技術の向上を目指します。	3前	60	4	○			○		○	○
56	○		美容演習Ⅴ	カット技術のタイムアップ完成度アップを中心に、美容師資格取得を目指します。	3前	30	2	○			○		○	
57	○		美容演習Ⅵ	カット技術のタイムアップ完成度アップを中心に、美容師資格取得を目指します。	3後	30	2	○			○		○	

58	○	エキスパートヘアメイクa I	将来グローバルなアーティストを見据え、現場で必要とするスキルを学び、クリエイティブ性を伸ばします。	3前	120	8	○	○	○											
59	○	エキスパートヘアメイクb I	ライティング等を意識したショー・TV・撮影メイク技術を習得します。	3前	120	8	○	○	○											
60	○	エキスパートヘアメイクc I	ヘアメイク技術とともに、どの世代にも対応できる接客術、カウンセリング術、衣装フィッティング、和装着付けなどを学びます。	3前	120	8	○	○	○											
61	○	エキスパートヘアメイクa II	エキスパートヘアメイクIで習得した技術をもとにスキルアップとクリエイティブ性を伸ばし卒業後に現場で通用するアーティストを目指します。	3後	120	8	○	○	○											
62	○	エキスパートヘアメイクb II	トレンドを意識したアーティスティックメイク技術の習得、また学んだ技術を活かし、作品撮影を行います。	3後	120	8	○	○	○											
63	○	エキスパートヘアメイクc II	ヘアメイク技術とともに、どの世代にも対応できる接客術、カウンセリング術、衣装フィッティング、和装着付けなどを学びます。	3後	120	8	○	○	○											
64	○	選択 フォトワーク上級	写真知識/ヘッドピース製作	3後	60	4	○	○	○											
65	○	選択 エアブラシ(アート)	エアブラシの技術を習得し、メイクアップアーティストとしての対応範囲を広げます。	3後	60	4	○	○	○											
66	○	選択 アイラッシュ(HM3)	アイラッシュ(まつげエクステ)の基礎技術を習得し、幅広く学び即戦力となる力を習得します。	3後	60	4	○	○	○											
合計				60科目				3000単位時間(200単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
①卒業要件：各学年58単位(卒業年次は54単位)を修得しているものに対して、学年末に進級・卒業判定会議を開催し、学校長が進級・卒業を認定する。 ②履修方法：選択必須科目については、専攻等により事前に選択する。必須科目については自動的に登録される。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週